アニマシオン
animación

すべての子どもに読書教育を

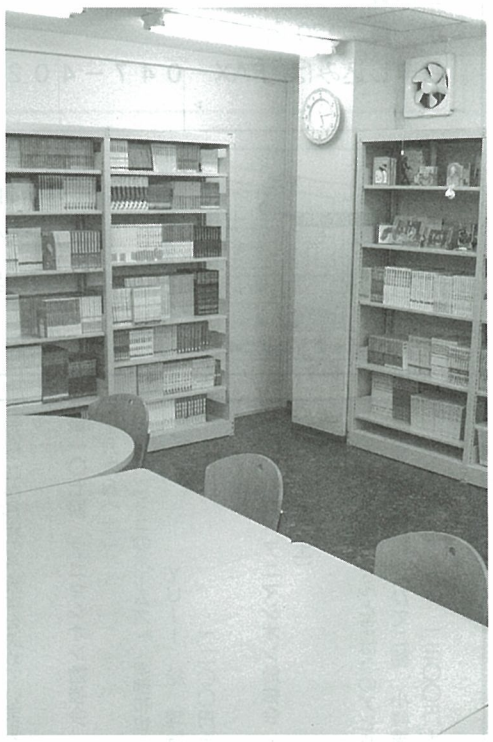
商標登録 第5139682号

特定非営利活動法人日本アニマシオン協会
商標登録 第5139681号
会報6号
2009年12月28日(月)発行
編集人／塚本 美樹　発行人／黒木 秀子

〒274-0825 千葉県船橋市前原西2-21-8 松沢ビル2F
TEL 047-402-3111　FAX 047-402-3061

種をまき、そだてる日々
―本の力に魅せられて―

２００９年秋冬も、協会メンバーが各地にお邪魔して研修会などに参加いたしました。多くは公立学校でのアニマシオンの実践や先生方向けの研修会ですが、アートフォーラムフェスティバルでのワークショップへ「読書へのアニマシオン」として初参加したり、京都橘大学にて教職課程の学生の方々への実践授業、群馬県総合教育センターでの教職員向けのセミナーや宇都宮短期大学人間福祉学科幼児福祉専攻の学生さんにアニマシオンの体験をしていただいたり、様々な年代の方にアニマシオン体験という形での「種をまく」活動を行いました。今回は協会メンバー三人の実践報告をいたします。


アニマシオン用貸し出し図書

アートフォーラムフェスティバル2009 男女共同参画 ミニ・ワークショップに参加して
諏訪　志げる

楽しい読書はじめのいっぽ 絵本で遊ぼうアニマシオン

十月二十五日（日）
会場　アートフォーラムあざみ野
作戦26「ここだよ」
絵　本『14ひきのやまいも』
作戦27「これ、君のだよ」
絵　本『アイラのおとまり』

十月二十五日（日）、横浜北男女共同参画センター主催のミニ・ワークショップに「子どもの本アニマシオン倶楽部」として参加いたしました。

たくさんのワークショップの中で、読書のアニマシオンは初参加でしたが、会場の〈子どもの部屋〉には、一歳七カ月のお子さんと参加したお母さん、幼稚園児と二人の小学生四人で参加したお母さんなど、ご家族ぐるみで読書のアニマシオンを体験したいという参加者の熱気でいっぱいでした。

いわむらかずおさんの『14ひきのやまいも』では、ぬいぐるみやペープサートを使って《ここだよ》の作戦を楽しむことができ「ここだよ！」の笑顔が広がりました。

作戦26「ここだよ」

『アイラのおとまり』では、人物と持ち物を関係づけていくアニマシオンですが、小さな子と大人のほほえましい交流が見られたり、小学生の記憶力に圧倒される場面も見られました。

作戦27で使用するたくさんのアイテム

「アニマシオン」という言葉に初めて触れたというのが殆どの参加者の皆さんでしたが「読書」を大切にしたいという思いは共通でした。

これからも、機会があったら参加したいというたくさんの声を頂きました。

諏訪志げる（すわ・しげる）
当協会理事
子どもの本アニマシオン倶楽部

教職を目指す大学生へのアニマシオン
京都橘大学にて
鈴木　淑博

去る十二月十日、名残の紅葉が美しい京都を訪れました。目的は京都橘大学でのアニマシオン。教職を目指す学生さんたちに九十分三コマ、アニマシオンの実演をさせてもらいました。

これは、橘大学准教授池田修先生のご好意によるものです。将来の志望に合わせて、様々な作戦を七つ用意し、予読もお願いしてみました。

本と作戦は以下のとおりです。
『いちご同盟』（予読）作戦四九番、『おじいちゃんの口笛』作戦三十番、『あたごの浦』作戦二六番、『アイラのおとまり』作戦二七番、『みどりのゆび』（予読）作戦三二番、『ランパンパン』作戦一二番、それから「なぞなぞ」の作戦四一番です。

中学時代に読んだこともあるという学生さんもいた『いちご同盟』、最初に粗筋をリレーで語るところから、さすが大学生、という発言が多くあり、その後作戦の目玉である黒板に人物を書き出していく時にも、次々と指摘が出て、活発なやり取りとなりました。この人はいなくてもいいという人はいますか、という問いかけにも複数反応があり、またこれへの反論も出て、充実したアニマシオンの時間でした。

学生さんは全般に、この本でどんな展開をするんだろう、という興味を持って、この時間に参加してくれたようです。こんなやり方があるんだ、という感想を多く頂きました。

普段とまた違った楽しさを与えてくださった京都橘大学の池田先生と学生さんたちに感謝します。

京都・橘大学での授業

鈴木淑博（すずき・よしひろ）
当協会監事
慶應義塾普通部　教諭

初めての「アニマシオン」を体験しよう
天田　比呂志

十一月十四日（土）に、群馬県総合教育センター主催「読書指導実践セミナー」の一部として、「初めての『アニマシオン』を体験しよう」というタイトルの研修があり、講師をしてきました。このセミナーは私が以前勤務していた平成十四年に始めたものですから、もう七年目を迎えます。教職員向けの公立研修センターで、読書へのアニマシオンを取り入れたのは群馬県総合教育センターは全国でも早かったのではないかと思います。

当日の参加者は新型インフルエンザの影響などもあって三十名弱でした。教材として採用されている読書ゲームはやったことがあっても、読書へのアニマシオンというものについて、体系的に学んだことがない方たち向けに話を進めました。

「長期的かつ計画的に行う読書教育」「予読」「作戦」「遊び」などの考え方のうち、中核となる言葉をしっかりと理解していただきながら講義を行いました。当然ながら、講義だけでは睡魔との戦いになってしまいますから、作戦も体験していただきました。

まず、『雪女』（偕成社二〇〇〇）を使って作戦34《彼を弁護します》を体験していただきました。他の方の読みの深さに感嘆の声を上げる場面もあり、同時に予読の大切さも実感していただきました。

次に『アベコベさん』（文化出版局一九九七）を使って作戦27《これ君のだよ》を体験していただきました。御存じの通り、この作戦は物を集めるのが大変です。しかし、実物を袋の中から取りだした時の驚いた表情は、子どもたちと大人と全く変わらないものです。次はどんな物が出てくるのだろうと目を輝かせて取り出す仕草を見ると苦労したかいがありました。

せっかく集めた品物をいかさない手はありませんので、十一月二十六日に、娘がお世話になっている宇都宮短期大学人間福祉学科幼児福祉専攻の学生さんに読書へのアニマシオンを体験していただきました。

まさに押売に近い状態だったのですが、専攻主任教授の日吉佳代子先生に御理解を頂きました。約七十名の学生さんを相手に、先ほどのアベコベさん（文化出版局一九九七）を使って全員で作戦27《これ君のだよ》を、『おじいちゃんの口笛』を使って作戦30《なんてたくさんのものがあるのでしょう》を四つのグループ同時に行いました。短時間で作戦だけを体験していただいたので少し慌ただしく授業時間が少し延びてしまったのですが、保育士や幼稚園の教諭を目指していらっしゃる学生さんだけに興味を抱いてくれました。更に、日吉教授も興味を抱いてくださったのが何物にも代え難い成果でした。

天田比呂志（あまだ・ひろし）
当協会副理事長
群馬県立館林女子高等学校教頭

～協会会員講演記録～

黒木秀子

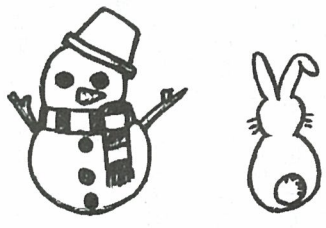
10月 1日　玉川大学司書教諭養成科目ゲスト
7日　東京都江戸川区大杉第二小研究授業講師
10日　東京都町田市大戸小全校開校日
13日　東京都町田市小教研図書館部会
18日　千葉県佐倉市「ジャングルジム」
21日　東京都立川市松中小研究授業講師
24日　東京都新宿区こども図書館講演会
29日　千葉県大網白里町希美の森小訪問授業
31日　多摩アニマシオンの会
11月 2日　東京都青梅市青梅第五小訪問授業
4日　東京都立川市小教研図書館部会
5日　東京都青梅市青梅第五小訪問授業
11日　東京都立川市松中小校内研修会
13日　東京都青梅市青梅第五小訪問授業
14日　第105回アニマシオン勉強会
15日　千葉県佐倉市「ジャングルジム」
26日　東京都青梅市若草小訪問授業
12月 3日　千葉県袖ケ浦市奈良輪小訪問授業、校内研
4日　東京都青梅市若草小訪問授業
7日　島根県江津市津宮小訪問授業、校内研、江津図書館
8日　島根県江津市江津幼稚園訪問
9日　東京都武蔵野市小教研図書館部会
12日　第106回アニマシオン勉強会
13日　千葉県佐倉市「ジャングルジム」
19日　多摩アニマシオンの会

太田克子

10月 7日　台東区教育研究会図書館部会（台東区立根岸小学校）
22日　渋川市PTA母親委員会(渋川市庁舎)
26日　群馬県高等学校教育研究会図書館部会
第2回司書研修会分散会（県総合教育センター）
11月 5日　まえばし教育の日　読書へのアニマシオン
前橋市教育委員会（前橋プラザ　元気21）
対象一般市民

諏訪志げる

10月 7日　西多摩郡小学校研究会　講師
10日　第104回アニマシオン勉強会
25日　アートフォーラムフェスティバル2009
男女共同参画ミニ・ワークショップ
12月 9日　世田谷区立山野小学校校内研修会　講師
14日　世田谷区立東玉川小学校訪問授業



連載リレーエッセイ第七回

小さい頃好きだった本

幼い日の記憶

遠田　美紀

父のあぐらの中にとっぽりと入り、絵本を読んでもらっている幼いわたし・・・・。

これが本との出会いの記憶のはじめ。『ピノキオ』の絵だったような気がする。

小学校に入学してからは、『学習』という雑誌を買ってもらい、何度も読んだ。というのも、ほかの本は買えなかったのだ。勢い、図書室や友だちの本をむさぼり読むことになる。「美紀ちゃんは、本ばかり読んで遊んでくれない！」と言われるほどだった。

二年生で初めて、泣ける本と分厚い本に出会った。『ないたあかおに』と『家なき子』だ。『ないたあかおに』では、相手を思う心が切なくてさめざめと泣いた。『家なき子』以降は、長編物語にまい進する。

漫画もよく読んだ。そのころは、歴史ものの漫画がけっこうあった。『丹下左膳』『一心太助』『真田幸村』『新撰組』など、わくわくしながら読んだ。主人公の顔はひょうきんで、こわい感じはしなかった。

『水の子』との出会い

高学年で、不思議な感覚に陥るような本、『水の子』を知る。煙突掃除のトムが、すすで真っ黒だったのに、川に入ってきれいな裸んぼうの妖精になる。水の中でも生きていて、心まできれいになっていく。透明な水の中で流れるような動きのトムの姿。幻想的な挿絵も忘れられず、いつまでも心に残った。

大人になってからも時々トムを思い出し、『水の子』を探したが何十年も見つけられなかった。

昨年、横浜市の図書館で古い文庫本の『水の子』を見つけたときは、朽ちかけた屋敷に踏み入るような感覚で、すぐには手が出なかった。なにしろ、五十年ぶりの再会なのだから。

再会したものの・・・

でも、イメージが合わない。挿絵も違うし、変に教訓めいて風刺的だったから。小学生のときに最後まで夢中で読めたのはなぜ？なぜ？人との再会が、必ずしも喜びにならないときがあるように、本との出会いにもこんなことがあるのだなあとしみじみと思った。

※『水の子』キングスレイ　作　岩波少年文庫

※『水の子どもたち』偕成社文庫

遠田美紀（おんだ・みき）
当協会理事
東京都世田谷区小学校非常勤講師

第４回アニマシオン読書教育セミナー　　こどもゆめ基金助成事業

ルラルさん、おさる、オバケちゃん…いとうひろしさんの世界

『おさるのまいにち』、『ルラルさんのにわ』、『ごきげんなすてご』などでおなじみの絵本作家の いとうひろし氏 をお迎えして、第４回アニマシオン読書教育セミナーを開催いたします。

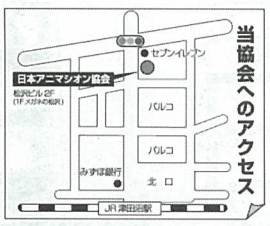
いとうひろし作　ポプラ社

日　時：2010年３月27日（土）１３時半～１６時
講　師：**いとうひろし**　氏
会　場：龍馬進学研究会３階会議室
参加費：500円
定　員：120名
お申し込みは、FAX　０４７－４０２－３０６１まで。

講師紹介

1957年東京生まれ。早稲田大学教育学部卒業。絵本作家。
『マンホールからこんにちは』、『おさるのまいにち』などの「おさる」シリーズ、『ルラルさんのにわ』などの「ルラルさん」シリーズ、『だいじょうぶだいじょうぶ』など多数ある。

当協会へのアクセス



龍馬進学研究会は松沢ビルの２階、３階です。
日本アニマシオン協会事務所は同じビル内の２階にあります。
当日の会場は、龍馬進学研究会３階会議室です。

▼勉強会のお知らせ▲

二〇〇一年三月に始めた「アニマシオン勉強会」が当協会の母体となりました。引き続き、これまでと同じように毎月勉強会を開催いたします。どなたでも、いつでもご出席ください。

（事前のご連絡は不要です）

◆毎月第二土曜日　十四時～十七時

◆真生会館二階第二会議室
（JR総武・中央線「信濃町」徒歩一分）

◆参加費（会場代として）千円
（会員の方五百円）

【予読本のご案内】
毎回、二か月先の予読本を決めています

第一〇七回　アニマシオン勉強会
一月九日（土）
予読本　『ネコのホームズ』　南部和也　作
YUJI　絵　理論社
一,二〇〇円＋税

第一〇八回　アニマシオン勉強会
二月十三日（土）
予読本
『グラタンおばあさんとまほうのアヒル』
安房直子作　いせひでこ絵　小峰書店
一,三〇〇円＋税

ときどき連載コラム

アニマシオンここがポイント！　第二回　子に学ぶ

クリスマスを数日後に控えたある日、息子に会った。半年ぶりくらいだ。外で待ち合わせたら相手は二〇分も遅れてきた。寒い。

彼女と二人で来るとは聞いていた。

ようやく遠くに姿が見えた。いつのクリスマスだったかにサンタさんにもらったマフラーをして、その次の年だったかにまたサンタからもらった手袋をしている。

相当気を使ったのかなー、それともマフラーや手袋なんて一種類ずつしか持たないものなのかなー。と思っているうちに、彼女（私が合うのは二度目で、ほとんど話をしたことはない）がにこにこと私に紙袋をくれた。クリスマスプレゼントです、と。息子が家を出て行った頃に、私が好きでよく使っていたブランドの化粧品だった。

実はこちらも長女と二人でプレゼントを準備していたので、渡す。そしてしばらくの時間を四人で一緒に過ごした。

息子は誰と口をきくでもなく、のんびりとくつろいだ様子に見えた。

この息子と長女の二人は、決して無理をせず、自分のキャパを敢えて広げず、狭い世界で身の回りを整えて暮らす生き方を選んだように思う。

私自身はガツガツと欲張った人生を選んでいるので、子どもを見ていると歯がゆくなったり、資格だけは取りなさいと説教をしたくなったりする。

しかし久しぶりに会った息子がずいぶん楽しげに生きているのを見て、この人はこれで良かったんだろうと素直に思えたのが自分でも少し不思議なことだった。もう私が何を言っても届かないというサッパリした親子離れの気持ちと、自分とはまったく違う生き方を教えてもらったという気持ちと。

子に学ぶということがこれかー。

帰りの電車は少し混んでいて、四人でドア付近に立った。おしゃべりでもしようかと思ったら、息子はかばんから文庫本を取り出して読み始めた。なんだ、つまらないと思って、私も文庫本（大学入試現代文の解説書）を読み始めた。ふと見ると長女もバッグから文庫本を。

息子の彼女は携帯の画面を見ている。夕方の電車の中でそれぞれ本を読んでいる三人連れなんてもう、珍しい光景だろう。

私は子育てを通じて子からたくさん学んだと思うが、子が私から学んだのか遺伝したのかは、活字中毒という病だけだったみたい？

（パウ子）

たまには本のことを

黒木　秀子

古くさくなんかない　正義と勇気と愛情のストーリー

『エーミールと探偵たち』
『点子ちゃんとアントン』

今年度、自分の教室の小学四、五年生合同クラスで、全一〇回の「ケストナーを読む」というシリーズ授業を行った。一回は九〇分間。

岩波少年文庫の池田香代子訳を用い、『エーミールと探偵たち』『エーミールと三人のふたご』『点子ちゃんとアントン』の三冊を二ヶ月半で読もうという計画だ。

結果から言うと、『エーミールと探偵たち』が一番読みやすく、人気が出た。『・・・探偵たち』の面白さに引きずられて『・・・三人のふたご』をなんとか読み終えることができた子もいた。『点子ちゃん・・・』は実際に読みにくい部分も多かったようだが、なんとかかんとか全員でこの三冊を読了した。

ご存知の方も多いと思うが『エーミールと探偵たち』は、エーリヒ・ケストナーが戦前のドイツの街角を舞台に描いた少年物語。主人公のエーミールは貧しさの中で自分を育んでくれる母親への熱烈な愛情を抱いている。

さてあるとき、エーミールは母方の祖母へ、母親が働いてためた、なけなしのお金を届けるためにひとりベルリンへの汽車に乗る。しかし、車中で油断したすきにトラの子のお金を盗まれてしまう。途方に暮れるエーミールはベルリンの街角でグスタフという名の少年を頭とする一群の少年たちと出会い、泥棒を追跡する探偵団が組織された。そして・・。

今から八〇年も前に書かれた本なのにちっとも古くさくない。『・・・探偵たち』を読みながら早速、グスタフの口癖の「てやんでぃ」を連発し始めた男の子がいた（四年生）。あまりにそればかり口にするので、三回めころからその子の呼び名が「てやんでぃ」になった。「きょう、てやんでぃはまだ来てないの？」等々。

さて、本を一冊読み終えるたびにアニマシオンの作戦十五番を少しアレンジして、チーム対抗でクイズ合戦をした。てやんでぃ君は片方のチームのキャプテンになり、チーム名も「チームてやんでぃ」に。

『・・・探偵たち』でクイズをしたときは大接戦となった。ところが後半に、チームてやんでぃにいたひとりの男子（五年生）が大活躍をして、チームを勝利に導いた。勝利チームの全員にはささやかな賞品を出した（ミニサイズのチョコレート）。

ヘンデル「見よ勇者は還る」の口三味線のもと、賞品贈呈を行い、わいわいと帰り仕度をして散っていく子どもたちを眺めるともなく見ていたら、あれ？　部屋の隅でてやんでぃが、勝利に貢献した子に自分のチョコレートを差し出していた。「これ、おまえにやるよ。おまえがいたから俺たち、勝てた」。

ちょっと、決め台詞すぎないだろうか？普通四年生は五年生にこういう口はきかない。しかし五年のその子も、頷いて、黙ってそのチョコを受け取った。

その瞬間二人はすっぽりケストナーの世界を生きているみたいだった。

『点子ちゃん・・・』でクイズをしたときにはこんなことがあった。

『点子ちゃん・・・』の本はすっかりつくりごとのお話だけれども、ときどき「地の作者」が出てくる。そして、たいてい、正義とか勇気とかについて説教臭いことを書き連ねるのだ。私は、みんな、その箇書を飛ばして読むかもしれないなどと心配していた。

問題づくりのときに（クイズ合戦は問題文づくりが肝心カナメ）、ひとりの子（四年生）が「こういうのでもアリですか？」と聞いてきた。それは、アントンが、点子ちゃんにいちゃもんをつけてきたチンピラを殴った行為について、例によって登場してきた作者が、「あの行為は勇気ではない、蛮勇だ」とコメントしている部分を問題文に使ってかまわないか？ということだった。

問題文そのものは「アントンがクレッパーバインにパンチを二発くらわしたのは、勇気ではなくて何でしたか？」というもので、案の定、正解を引き出すことはできなかった。しかし、『点子ちゃん・・・』を読んで、作者の直接のメッセージを真正面から受け止める子がいることが、なんだか私にとっても誇らしいことのように思えてきた。大人が大真面目で子どもに伝えたがっていることは、子どもも大切に扱わなければならない。

・・・と、なんだかそろそろこの小文もケストナー臭くなってきたので、このへんでペンを置くことにする。

新着本紹介

貸し出し図書は、７種類増え、全１５３種類になりました。
新着の図書は以下のとおりです。なお、貸し出し図書のリストにつきましては「会報５号」をご覧ください。

『くまさぶろう』	人気につき20冊追加しました		
『くつやのマルチン』	トルストイ原作	至光社	20冊
『オペラハウスのなかまたち』	リディア＆ドン・フリーマン	BL出版	20冊
『ぼく　ねむくないよ』	リンドグレーン	岩波書店	20冊
『魔笛』	ゾーヴァ・絵　那須田淳・文	講談社	20冊
『ねこのホレイショ』	クライマー文　クアッツケンブッシュ絵	こぐま社	20冊
『ダイアナと大きなサイ』	アーティゾーニ作	こぐま社	20冊
『アリババと40人の盗賊』	馬場のぼる	こぐま社	20冊

◆事務局だより◆

人手不足で毎度ご迷惑をおかけしています。現在、事務局の態勢は週に3日間だけスタッフが詰めています。貸出用図書の整備は月に1、2回ボランティアの方々にブックコート作業をしていただいています。感謝申し上げます。事務局スタッフとして働いてくださる方を募集しています。よろしくお願いします。

（理事長　黒木秀子）

◆編集後記◆

今年の春ごろから夫が家庭菜園を始めた。子どもがうんと小さいころは畑を耕したり、種をまいたりしたものだったが現在はもっぱら収穫するのが私の仕事。葉っぱも実も根っこも成長を待つのはすごく楽しいものである。

（編集長　塚本美樹）